

江南市地域福祉計画策定委員会 議事要旨

会議名	平成29年度 第6回 江南市地域福祉計画策定委員会
日時	平成30年2月14日(水) 午後1時30分～
場所	江南市役所 第3委員会室
出席者	委員 石井 勇男、岩根 佐代子、奥村 勝次、柏原 正尚、倉知 榮治 坪内 三、永田 幸子、丹羽 義嗣
	市職員 丹羽 鈺貢、貝瀬 隆志、平松 幸夫、大池 慎治
	社会福祉協議会職員 小塚 昌弘、伊藤 光洋、宮本 清隆
欠席者	澤野 康樹、内藤 昇彦、名倉 尚之、三ツ口 文寛
議題	1. パブリックコメント結果について 2. 概要版について 3. 地域福祉計画・活動計画素案について 4. 計画の進捗管理について 5. その他
資料	資料1 江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画(概要版) 資料2 江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画(案) 資料3 進捗管理シート(案) 参考資料1 策定部会議事録

◆ 会議結果 ◆

1. パブリックコメント結果について

(事務局) パブリックコメント結果について説明。

(会長) パブリックコメントに対して意見がなかったことで、ゆくゆくはこういう時に良いことも悪いことも含めて、何かアクションがあることが望まれる。また、今回1回目の地域福祉計画なので、全く関心がないわけではないと思うが、そこまで高い関心がないのかと思うので、関係する方々に「意見をください」と言えるような仕組みがあるとよかったかもしれない、次の見直しに向けてはそういう記録を残していければいいのではないかと。

2. 概要版について

(事務局) 概要版について説明。

(会長) 音声コードをつけるとか大判にする等の予定はあるか。福祉という名の計画

なので、小さい字で見づらいことや弱者の方への対応を考えておいた方がいい概要版だけすとか、重点的などところだけすとか、事務局で検討してほしい。

(会長) 配布する時が理解してもらおうチャンスなので、協力し合えることを確認すとか、これを機に活動が動くようなものになるので、説明をしながら配布するなど配布の時に工夫してほしい。

(会長) 難しい言葉が並んでいるところがあるので、「例えば」のところを強調したりして工夫してやさしいものになると浸透しやすいと提案がありました。策定委員会は終わりでも、これをどう使うかが大事なので、そのためのスタートと捉えて、皆さんが使いやすいものになるといいのではないかな。

3.地域福祉計画・活動計画素案について

(事務局) 地域福祉計画・活動計画素案について説明。

(会長) 地区ごとに方向性が出ているのはいいと思う。地区ごとに中身が違うということからこれから情報を蓄積させて次の計画にはさらに違いが明らかになればいいと感じた。また、今は、皆さんから現状を聞いてまとめている段階なので、活動の経過が見えてくると、よりいいものになる。

(委員) 民生委員の後継者づくりについて「支援を進めます」というのは簡単だが、どういう仕組みにするのか、例えば福祉士の制度を作って、皆さんが予備知識を持てるようなことを考えておいていただきたい。そうすることで、民生委員も安心して取り組める。

(会長) これは民生委員に限らず、地域での活動の担い手をどう支援していくのか、また、急に民生委員に名乗りを挙げるのは難しいが、「少しのことでもお手伝いするよ」という人が増えれば、それだけでもだいぶ違うのではないかな、アンケートの結果をうまく使って、声を掛け合って「一緒にやろうか」というだけでもだいぶ違うのではないかなと思う。

(委員) これは誰にやってもらおう想定なのか。素敵な計画は立っているが、誰を担い手にして、どこを軸にして広めていくのかという具体的なものが見えず、さらに配布先が懇談会の席だけというのは、どうなのか、この策定委員会が終わった後、実施されるのは事務局の方たちなのか、また、委員会のメンバーがどういったかたちで協力していくのかなど、具体的などところが見えにくいという印象。

(事務局) 理想論かもしれないが、現時点で福祉活動を誰がどうやるのかというターゲットを絞るべきではないと考えている。できるだけ多くの人を巻き込んで地域の方たちの力をお借りしながらこの計画を身のあるものにしていきたいと考えている。

(会長) 一番重要なのは行政計画であるということ。行政もこの会議のメンバーもそして住民も「一緒にやります」というスタンスで、ともに自覚するという意味が

あり、意識を地域に向けて、協力し合う、ただ、一回目ということで、生みの苦しみでもあるが、配布時がポイントかもしれない。

(委員) 民生委員や包括支援センターの仕事がどんどん増えてしまったらどうなるのか。また、社会福祉協議会も研修してもらって住民が安心して相談できる場所になってもらいたい。

(委員) 外国人から見ると、井戸端会議している日本人は少ないと新聞に出ていた。つまり、外に出る人が少ないので、情報を得ようとしても難しい、また、役員が年々変わっていく中で誰に相談したらいいのか分からなくなっている、また役員になる人がいない、ということで、これは難しい問題だと感じている。

(会長) 地域の課題とはそういうものだと思う。進んだように見えていて実は根本は解決していないということがある、身近なことは身近な人たちで相談できるような場は必要、隣の人とちょっと話ができるようなそんな関係づくりが必要、「あそこに行けば、情報を得られる」とか「あの人の手助けしようとしたら自分も楽しい」とか「これ、やっています」ということを言うことや、「これから作ります」ということも大事なことで、また、課題は言っているだけでは解決しないが、言っていないと永遠に解決しないので、言い続けることが大事だ。

(委員) 今までの福祉は「やってもらう」という意識だったが、今回の計画はそうではなくて、市民一人一人がやれることをやりましょうというのが根本だと思う。そのために、登場人物はとても身近な人なので、市民がみんなの手で縁を作りながらやっていきましょうというのが一番大事なところであり、民生委員さんを補助する人がいろんな形で出てくるといいなというのがこれからの第一歩だと思う。これから3年後の見直し、その3年の間に何ができてきたのかをきちんと見ることがこの計画を作った意味であり、3年後に何も変わっていないということならば、もう一回見直さなければならない。

(委員) この計画を、広く伝える必要がある。誰かをターゲットにするのではなく、誰にも広く伝えることなので、概要版については検討してほしい。30年度は検討になっているので、検討している間にいろんな人に伝えてもらう機会だし、計画ができた時に、頑張ってそれを広めないとならない。

(委員) 「地域福祉って何」ということをA4くらいにまとめて広報でPRすることが大切で、その後に、中身に入っていくべきだと思う。また、高齢者の方の中には民生委員に話し相手になってもらいたいと願っている人が多い。

(副会長) 江南市と社協が協働で作ったことで、福祉の第一歩、福祉の羅針盤になるので、それがいつまでも棚に積んであるというのでは困る。この計画をしっかりとPRして、みんなでやっというのを知らせてほしい。江南市も社協も一緒になってやっというのをしっかりとPRして、みんなでやっというのが大切だ。

(会長) その時の状況に応じてどう話ができるかを想定しながらも、誰に配るかよりは配る人に合わせて伝える中身を考えるようにするということを検討した方がいい。

(副会長) 本編の発行元を最後に記載した方がいい。

(会長) 今の意見は議題4と重なるところがあると思うので、そちらに移行してさらに議論を深めていきたい。

4.計画の進捗管理について

(事務局) 計画の進捗状況について説明。

(会長) こういうものに表れにくいものをどうするかがあり、評価シートを作り過ぎるといけないと思いますので、シートを使うことに対して皆さんのご意見があればいただきたい。

(委員) 例えば高齢者生きがい課の方が「具体的にこれをやります」と言ったものを翌年の5月に「このように実施しました」と記載して行動指標のところに記入するというのでいいのか、複数の部署で検討して1枚を作成するのか。

(事務局) すべての部局がそれぞれの該当するシートを記載していく

(会長) 気になることとして、やった、やってないは分かるが、どうやったのかという質的なことはこのシートだけでは少し弱いのではないか。そして、進捗状況を見るのはこれでいいが、うまくいった地域でなぜうまくいったのかとか逆に課題が残った時に言葉だけではなかなか伝わりにくいところがあるので、皆さんの中でアイデアがあれば教えていただきたい。

(委員) これは行政目線なので、市民がどう感じているかという市民側の目線でのものがここに入ってくると、より生き生きとしたものになってくると思う。地域福祉懇談会が計画されているようなので、そのような機会に市民の声を吸い上げてどう評価に結びつけていくかというところを指標として持っているのと別の視点が見えてくるのではないか。

(事務局) 懇談会は来年もやっていくが、参加していただいた方に簡単なアンケートを取ったりしてそれを反映させるといいかもしれないので検討したい。

(会長) その時にしかできないことをきちんと記録に残すということはとても大切なことで、それを残すことでその間のプロセスも見えてくるかもしれないし、関わっていない人も記録を見ることがあるので、何か工夫があるといいのではないか。社協のやっている事例集のようにまとめられるといい。

(委員) どこをゴールにするのかという指標が必要。ばらばらに動いてばらばらに評価するのではなく、同じようにやるのであれば、年に一度は一緒に評価して点検できるといい。

(会長) 「課題など」となっているが、課題ばかりだと見ないので、よかったら良かったら

たところも書けるようにすることで、ポジティブに考えていけるような雰囲気が進捗管理にもあると、取り組みが続きやすいのではないかと。

5. 部会意見の説明

(事務局) 部会意見についての説明。

(会長) 小地域もモデル的に実施するのか、全部でやるのか、マルの付け方が難しい。

全体でやるか、モデル的にやるのか、特定地域でやるのか、検討する時に確認してもらいたいと、取り組みによっては変えてもいいのではないかと。

(事務局) 全部の地域なのか一部の地域なのかの区別はあってもいいかもしれない。

(会長) 全部する必要がない地区もあるかもしれない、カバーし合えることもある。

6. その他

(事務局) 計画書の印刷について、納品は3月下旬を予定。でき上がったら、皆さんにもお配りする。

(健康福祉部長) 計画を作った後が大事。来年度以降に向け、一生懸命頑張っていくが、皆さんからご協力をいただかなければならないことも多々あると思うので、その節はご協力よろしくお願ひします。2年間、本当にありがとうございました。

(会長) 私は江南市民ではありませんが、この会の進行をやらせてもらった。なかなかうまく進めることができなかつたかなと思うが、後半には皆さん、活発にご意見をいただき、事務局を中心にしっかりまとめていただいた。どんなに立派なものが作られたとしても、絵に描いた餅にならないよう、もしかしたら要らないものが出てきたら、それはやらないという決断も必要だと思う。今は必要だと思つたとしても、他のことに取り組んだら、これは要らなくなったということだったら、勇気ある決断でやらないようにしようとか。そうしないとどんどん仕事が増えてきて、いらぬものも嫌々やるということになってしまう。計画を作つたというのはスクラップ&ビルドではないが、そういう視点も、今後の福祉には必要なのではと思う。そのために、勇気を持って評価、できていないものはできてないとかしないとか、削ぎ落とすものは削ぎ落して必要なものやっけていくようになるといいと感じた。是非、江南市がいい地域福祉の実践の場として注目されることを期待して、会を閉じたいと思う。この2年間、どうもありがとうございました。

—終了